

2. 住民の認識からさぐる 輪島朝市の今後についての一考察

(代表) 長 友里恵 (文学部史学科 地理学コース 4年)

高橋功太郎 (文学部史学科 地理学コース 3年)

指導教員

神谷 浩夫 (文学部史学科 教授)

1. 研究の目的

石川県の輪島朝市は、戦後の高度成長の中、懐かしい対面販売の残る素朴な雰囲気や土地の物が入手できるという点で観光客の人気を博したが、観光地として発展するにつれ観光地化し俗化したとの批判を受けるようになった。一方で近年、地域住民を対象に地元農産物の販売を行う農業協同組合主催の市や、「しろうと」販売員によるフリーマーケット等、新たな形態の市が各地で開かれている。

以上の点を踏まえて、本研究では、輪島市住民の①買物状況、②商業施設としての朝市の評価・利用状況、③朝市に対する認識に重点をおいて調査し、かつてのような生活市としての再興の可能性及び今後の方向性について考察した。

2. 研究方法

主に以下の調査方法にて研究を行った。

①輪島市中心部の住民を対象としたアンケート

(地元住民の買物状況、朝市の評価・利用状況、朝市に対する認識の把握)

②朝市組合員を対象としたアンケート

(出店者の特徴から朝市の現状を把握)

③聞き取り調査

(朝市組合や輪島市役所商工業課、能登北部保健福祉センター等を対象)

3. 研究成果

1) 中心部住民の買物傾向

①年齢と職業の関連

・・・高齢ほど専業主婦率が高く、若年ほど時間的拘束力の強い職業率が高い。

②職業と買物時間の関連

・・・仕事による時間的拘束が買物時間に影響している。

③年齢と交通手段の関連

・・・高齢ほど徒歩率、若年ほど自動車利用率が高い。

④利用者分布・交通手段による買物場所のタイプ

- ・・・商店街・朝市タイプは徒歩利用者が多く近隣住民の利用が多い。
大型店タイプは自動車利用者が多く広範囲に分布する。

2) 朝市利用頻度の差

以上の買物傾向は朝市の利用頻度にも関連している。

- ①利用頻度の高い人の傾向・・・年配、専業主婦・無職、徒歩での買物、近隣の住民。
- ②利用頻度の低い人の傾向・・・若年、就労者、自動車での買物、遠方の住民。

3) 朝市利用理由から見る住民にとっての朝市の魅力

- ①現在も朝市の最大の魅力は「地物」「品質・鮮度の良さ」。
- ②「安さ」「商品の豊富さ」という魅力の薄れ。
- ③コミュニケーションの場としての機能の薄れ。

4) 朝市を利用しない理由

- ①全体的に「観光客向け」「出店時間に行けない」という理由が大きく、「遠い」「混雑」「駐車場が有料」が続く。
- ②観光地化に対する批判的な意見の多さは以前と変化無し。
- ③就業者は特に、「出店時間に行けない」という理由が大きい。

5) 住民の朝市認識

全体的傾向

- ①朝市の存続希望は高い。朝市を利用しない人でも存続について関心は強い。
- ②「観光効果」「歴史・伝統・文化」「地域の活性化」という点で朝市をプラス評価し期待。
- ③マイナス評価・改善すべき点は、「観光化」「販売・接客態度」「商品の産地」

利用しない理由の最上位に「観光客向け」、マイナス評価・改善すべき点で「観光化」が挙がるにもかかわらず、利用しない人の約半数が「観光効果」をプラス評価し期待する。利用はなくても観光業に対する期待と関心は高く、朝市・輪島市に観光は不可欠との認識がある。朝市を利用している人でも、「観光効果」を評価し期待する。

4. 考察と結論

1) 「出店時間に行けない」という問題を解決するのは非常に困難。現状は住民の生活スタイルとの乖離が否めない。過疎化の進む中、輪島市民を主にして現在の規模の朝市を維持するのは困難。

2) 利用しない人の中には、「朝市は日常生活と離れた観光地」との認識と、「朝市の観光

効果への期待」が併存。

⇒昔のような日常の食材調達的生活市に朝市を復元しても、必ずしも住民の期待に沿えるとは言えない。

3) 「品物の新鮮さ」と「輪島らしいもの・地物」は、朝市を利用する地元住民と観光客に共通した朝市に対する要望。但し、新鮮な地物を市に並べるだけでは不十分。

観光客が朝市で購入した地物野菜や魚貝類を調理する飲食店の設置

加工して少量から量り売り

民芸品製作の披露

朝市の地物食材を使った惣菜の本町商店街常設店での販売等

「品物の新鮮さ」、「輪島らしいもの・地物」を足がかりとした新しい魅力の発掘が必要。

参考文献

石川弘義編著 1979. 『余暇の戦後史』 p106-224, 東京書籍.

石原武政 1991. 消費者から見た商店街. 都市問題研究, 43 (3), 15-28.

上田恵美子 2003. 新たな観光地形成に関する一考察—まちづくりと観光—. 経営研究, 53 (4), 183-201.

図説 輪島の歴史編纂専門委員会編 2003. 『図説 輪島の歴史』 p60-61, p96-97, 輪島市役所.

高橋亮 1991. 新潟県新潟市における毎日市群の現状. 金沢大学文学部史学科地理学研究室卒業論文.

長友里恵 2004. 輪島朝市および輪島観光の現状と維持・発展. 2003年度地域調査実習報告書「奥能登」, 58-65.

土橋治子 2003. 生活市戦略と観光市戦略の関連性—呼子朝市に対する評価データ分析を中心として—. 流通科学研究, 2 (2), 53-66.

富山県立高岡高等学校地歴クラブ 1965. 『輪島朝市の研究—GEO創校記念号—』富山県立高岡高等学校地歴クラブ.

富山県立高岡高等学校地歴クラブ 1978. 『「輪島朝市」の研究—観光地化による変貌—』富山県立高岡高等学校地歴クラブ.

永井弘著 1998. 『戦後観光開発史』 p236-282, 技報堂出版.

林健司 1995. 高山市における観光地化の研究. 金沢大学文学部史学科地理学研究室卒業論文.

福田善乙 2002. 日本における主な街路市・朝市 (1) —秋田五城目朝市—. 社会科学論集, 82, 89-163.

福田善乙 2002. 日本における主な街路市・朝市 (3) —石川県の輪島朝市—. 社会科学論集, 84, 1-62.

北國新聞社 2003. 『北陸の旬がいっぱい 朝市・直売所ガイド』北國新聞社.

- 溝部明男 1995. 北陸におけるフリーマーケットの動向―「青空蚤の市 since1983」(富山市)の場合―. 金沢大学文学部論集行動科学科篇,15,31-64.
- 溝部明男 1997. 朝市における常連度の規定要因について―輪島調査(1996)データ分析―.
- 溝部明男『フリーマーケット型露店市場と伝統的露店市場の比較』(平成6年度～8年度科学研究費補助金基盤研究(C)(2)研究成果報告書) 1-30.
- 輪島市 1980. 『輪島市河井地区市街地再開発事業基本計画<現況調査編>』 輪島市.
- 輪島市図書館友の会 1996. 『潮騒―私の五十年史―』 p 330-334. 輪島市図書館友の会.
- 輪島市本町商店街振興組合 1999. 『本町商店街振興計画策定調査～報告書～』 輪島市本町商店街振興組合.